

「感染しない」「感染させない」を合言葉に コロナに負けないぞ！

有田史談会 月例通信

事務局 中村貞光

090-4740-4752

坂井会長からのメッセージ♪

■ 皆さんお元気ですか？ 樹齢1000年の黄金の大イチョウもこの史談会通信が届くころには散ってしまっているでしょう。自然は移ろい冬支度を始めています。今冬は、異常気象をもたらす「ラニーニャ現象」の発生が見込まれ、一段と厳しい寒さになりそうです。会員の皆さん！毎日の健康管理に留意し、インフルエンザや新型コロナを吹き飛ばし、明るく元気な正月を迎えようではありませんか。

前回に引き続き、平成2年2月8日深川製磁に来社された土肥孝治検事総長（1996～1998年）ご染筆の座右の銘について記したいと思います。

千虚不如一実（千虚一実に如かず）の意味は、いくら巧みな言葉で嘘を積み重ねても一つの真実には勝てないということです。土肥孝治氏のエッセイ集に次のように書いておられます。-以下抜粋-

嘘で固めた犯罪者に対し、検察は必ず真実を明らかにすることが出来ると信じて万難を排して捜査や公判を進めていくのであり、まさしく「千虚不如一実」は検察の精神のより所と言えるものである。

ただ、私は、この言葉からもう一つの意味を感じた。それは、検察という人の非違を糺（ただ）す立場にある者として、絶対嘘をついてはならない。人を処罰するための手続を進めていく者として、絶対嘘をまじえてはならないという検察への諫めの言葉としての意味である。

それ以来、退職までずっと私は座右の銘としてこの言葉を肝に銘じ、また機会あるごとに若い人々にこの言葉を伝え、「この言葉は検察を力づけるとともに、自戒すべきことを教えるものである」と説いてきたのである。



（左 樋渡利秋氏 右 土肥孝治氏）

検事総長の揮毫品

深川製磁に来社されたおりのご染筆

坂井勝也

近況報告

■ 先月中旬、突然に起こった胸の痛み！最初はチクリとする軽い痛みが、日毎に突き刺さる強い痛みに変わり、若い頃から随分長い間喫煙していたので、色々考えているうちに肺がん？の痛みかもと不安になりました。丁度そのころ特定健診があり「带状疱疹では？」と先生に尋ねると「単なる神経痛でしょう」と相手にされず、一週間後に胸から背中にかけて帯状の発疹が出現！これは带状疱疹に間違いない！と確信し皮膚科を受診しましたが時すでに遅し。受診が遅れたため「带状疱疹後神経痛」の痛みでしばらく夜も寝れない状態でした。高齢になると発症し易いので皆様もご用心下さい。

さて带状疱疹の最中、17年前から我が家の仲間入りをしている愛犬ビービー君の体調が急変し、付きっきりの介護が始まりました。

実は2年前の10月にも急に食欲が無くなり、数日動けなくなった時はとても心配しましたが、何とか乗り切り元気を取り戻しました。昨年、体調を崩してからは散歩も殆どしなくなり、自宅で過ごすことが多くなりました。昨年の秋までは2階の寝室と一緒に寝ていましたが、粗相をすることが多くなり、以来介護の為に夜は1階で犬のそばに簡易ベッドを置き近くで寝るようになりました。

朝は少しだけ外に出て散歩をさせていましたが、最近殆ど歩けなくなっています。目は白内障が進行し殆ど見えない状態です。聴力もかなり低下していて、老化の進行が目立つようになりました。腹部にはいくつもの腫瘍も出ています。検査は受けていないので良性か悪性かの判断はできませんが、体調を見る限り穏やかに過ごしてきたのであまり気にせず自然に任せてきました。

先月下旬ころから、陰囊や腹部が腫れてきて動物病院を受診したところ、腫瘍の転移の可能性があり腹水が溜まっているとの診断を受けました。抗生物質とステロイド剤が処方され服用させてきましたが好転しません。獣医師からは「好きなものを食べさせて下さい」と別れが近いことを知らされ、今は毎日24時間体制でビービー君の介護が続いています。少々疲れ気味ですが頑張っています。いずれ別れが来ることは頭では解っているものの、ペットロスで立ち直れなくなるのではと今から心配をしています。

中村の近況報告でした

黒髪山伝説大蛇退治と地名

<第4回>

栗山慎悟

◎大蛇退治

おとりとなる万寿姫は、白川の池の畔に組まれた櫓（池に浮かべた筏とも）に座り静かに念仏を唱えた。そこへ万寿姫を食おうと大蛇が現れた。大蛇が現れると、隠れていた為朝や高宗の家臣等は一斉に矢を放ち、矢を受けた大蛇は傷つき白川の池深く沈んでいった。そこへ通りかかった梅野の盲僧行慈坊（海正坊とも）が、池の中に入り短刀でとどめを刺し大蛇は退治された。

大蛇伝説は活字化された本はなく、大人が聞いた話しを子供らに話して聞かせる口承文芸であるため、語り部によって内容は変わり多くの矛盾があるが、子供らの住む地名を盛り込んだりして子供らが興味を引くように語られている。

【幕ン頭】まくんとう。

有田町南山・原明と長崎県三川内木原町と境をなす、標高319.8mの山。幕ン頭は為朝が大蛇を退治するために陣幕を張り、この山から為朝は天童岩に巻きついている大蛇に矢を放った。

『為朝が 弓矢かまえし 幕ン頭』（有田いろはかるた）



幕ン頭（南川良原より撮影）
幕ン頭から天童岩まで
直線距離で約六km。

【戸矢】とや。（有田町）

天童岩を巻いた大蛇めがけて放った矢は、強靱な鱗にはね返されて、山を越えて民家の戸に刺さった。よってその場所を『戸矢』という。

戸矢には戸矢かぶという赤紫の蕪がある。戸に刺さった矢から流れた大蛇の血で赤く染まったと伝わる。

【矢杖】やつれ。（有田町役場西方）

『やつれ』と読む。大蛇に当たった矢がはね返って刺さった。戦で負傷した武士が矢を杖にして歩いた。

【赤田】あかた。（山内町）

退治された大蛇の血で田が真っ赤に染まった。

【龍門】りゅうもん。（有田町）

龍門峡の洞窟は大蛇が棲んでいたところ。また、天童岩を巻いていた大蛇は為朝の矢に射られ龍門の谷に転げ落ちた。その時通りかかった盲僧行慈坊（海正坊）の錫杖（または9寸5分の剣）によってとどめを刺される。

現在はダムになっていて町民の憩いの場として親しまれている。

【盲落し】めくらおとし。（有田町泉山年木谷）

年木谷北方の山中に祀られている琵琶嶽観音の壁面の崖をいう。為朝の矢を受けた大蛇は、黒髪山へ逃げる途中盲僧行慈坊と出会う。行慈坊は身の危険を感じ錫杖（しゃくじょう）を振り回すと、傷ついていた大蛇は錫杖に打たれ谷底へ落ち息絶えた。また、琵琶嶽の峯の山路を歩いていた盲僧の行慈坊がつかずいて転んだなどの伝説が残る。

崖には数体の地蔵が祀られていて、地蔵のそばに盲僧の杖の跡といわれる直径10cmほどの穴と、琵琶の形（半月状）をしたくぼみがある。琵琶嶽の名称は、琵琶の形のくぼみに由来するか。



琵琶嶽観音
年木谷北方の山中に祀られている。

事務局便り

■ 栗山さんの連載「黒髪山伝説」4回目をご投稿頂き、史談会通信は今回も充実の紙面になりました。栗山さんに感謝！今後とも宜しくお願いいたします。

さて、今年も瞬く間に一年を終えようとしています。皆様方は充実の年でしたか？ 2年続きで例会も親睦もないまま過ぎて行くのは寂しい限りです。コロナもこのまま収束して、来年こそは以前の日常に戻り楽しい活動が出来ることを願うばかりです。

皆様方も日々健康管理を怠りなく元気にお過ごし下さいますことをお祈りしています！